



からしだね

2017年2月号
(524号)

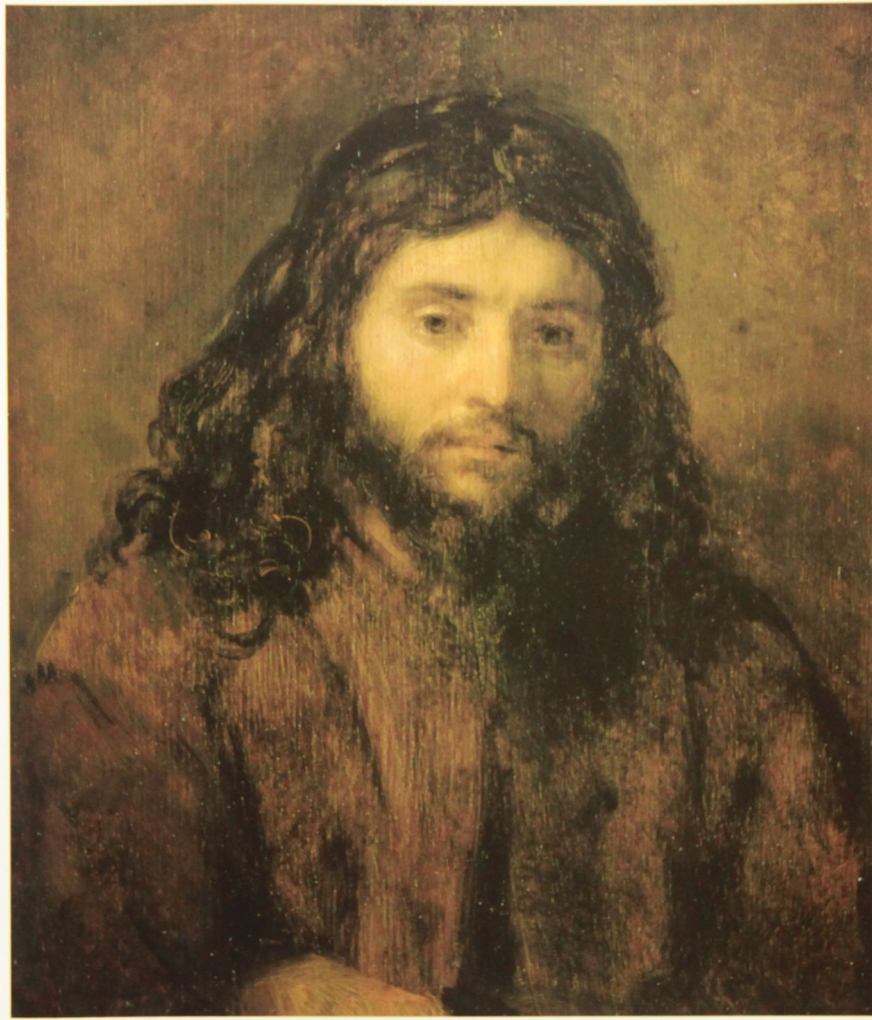
キリストの受難 カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸 神父・中村克徳 神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/



本号の記事とその掲載ページ

巻頭言 畠 基幸 神父…………… 2

「ユスト高山右近の列福に際して思うこと」

(ゆっくりと噛みしめて味わおう)

故松本一宏神父記念誌の出版に向けて… 7

記念誌の編集委員になる方を募集しています

初ミサで新成人を祝う…………… 7

笑顔の新成人が5名集いました

日曜学校生徒ぜんいんが発表したのは… 8,9

イエスの生誕を祝うクリスマス会

コールセシリアのミニコンサート……………9

祝祭の場となりました

巻頭言

ユスト高山右近の列福に際して思うこと

島 基幸 神父

いよいよ2月7日(火)大阪城ホールで、ユスト高山右近が列福されます。教区信徒の中に、大阪教区では、このユスト高山右近の列福を機に、教区全体で高山右近のいつくしみと祈りの霊性になり、まずは祈りの年として学び、来年の大阪教区宣教150周年を迎える機運を高める活動を企画して欲しいとの意向が前田大司教様から示されました(大阪教区時報1月号新生の日のメッセージ)。池田教会からも数十名が列福式に参加し、ユスト高山右近の聖徳の恵みを与えられた神への感謝と賛美をささげにまいります。

キリタン大名の列福に、現代の教会、そして現代の日本の人々に語りかけるメッセージがあるのだろうかといぶかる人もあります。しかし、この400年間、列福の機運が何度かあって、そして今になって列福されるのは、神の計画から到来した「時のしるし」だと思えます。列福の理由は、殉教者としての暴力的な死ではなく、日本の国是を乱す宗教と断罪した(1587年伴天連追放令)秀吉の豹変とその後の流罪と信仰の試練を乗り越えて聖性と完徳のあかしをした継続する殉教、すなわち「追放の苦難による殉教として、他者のために命を捧げるあかしであるだけでなく、十字架につけられた無力な主に与るあかしだからです」(ユスト高山右近列聖申請代理人アントン・ヴィテル教授・イエズス会士)。これは、現代の聖人殉教者の定義、「殉教は卓越した賜物であり、愛の最上のあかしである」(教会憲章42)と明言した公会議の聖人殉教者の現代的な霊的理解と軌を一にするものです。私にとっては、2年前の2015年に、フランシスコ教皇様にお会いして自己紹介したとき、列福の神学調査委員会が翌週に行われることを知りませんでした。ユスト高山右近の列福に対するお礼のことばを先走って述べた時が、聖霊降臨の

日に「ラウダート・シ」が公表された三週間後のイエスのみこころ祝日だったことは、何らかの神の摂理を感じるのです。

その話題の「ラウダート・シ」の回勅を読んでも見ると、教皇様は、地球規模の環境破壊を前にして、人間がいつしか姉妹である地球をほいままに無責任に使用したり、濫用したりする支配者や所有者になってしまった自らの姿を振り返る必要があります(回勅2)、荒廃した精神と暴力的な世界から何とか悔い改めて、『この世界を、交わりの秘跡として、神と、また地球規模で隣人と分かち合う道として受け入れる(ヴァルソロメオス総主教)』(回勅9)ための対話の促進を望み、この地球に住むすべての人に統合的な回心の必要を呼びかけておられます。同時に、教皇の基本的な確信—「私たちを鼓舞する霊性なしには、—『個人や共同体の行動を、刺激し、動機づけ、励まし、意味づける、内的原動力』なしに、—この高邁なこと(エコロジカルな回心=アッジジの聖フランシスコが示した総合的なエコロジー)への献身を、ただ教義だけで持続させることはできません」(勅回216、p184)—との言葉に引き寄せられました。

現代に必要なメッセージは、まさに、私たちを鼓舞する霊性、内的原動力の回復の道なのです。「ユスト高山右近」と「ラウダート・シ」には、まったく時代を超えた次元の違う二つの「時のしるし」であるのかもしれませんが、私にとっては、現代人が見失っている内的原動力、「霊の命」を回復するための同じ道標を示しているように思いました。つまり、「ユスト高山右近」は、下克上の戦国の世の侍でありながら、一個人の内面生活の内的原動力の回復を、そして「ラウダート・シ」は、地球規模の環境破壊のさまざまな力の論理に対して、共同体として抗うための共有すべき内的原動力の回

復を見出す道標ではないかと。

それでは、ユスト高山右近の霊性の中のどこに、内的な原動力の働きを見ることができるのでしょうか。あれこれの識者の本を読み調べると以下のようなことではないかと思えます。右近を回心に導いたのは、和田惟長との殺傷事件(1573年)です。形としては城主殺害の汚名を受けるほどの事件ですが、右近が神のいつくしみに触れた事件ともなりました。フロイスは、「彼は神のことを深く想い、驚くほどの成長をとげた」と記しています。この時、青年高山右近は、信仰の原点にある神の愛、それもわたしのために死んでくださった主キリストの愛を深く体験したのです。最も人間の闇の危機の時、神の手が右近の心に触れたのです。それは、神である「汝」と呼ぶ方との深い出会いでした。後年、高山右近は、「キリストに倣いて」(注: 切支丹版は「コンテムツスムンジ」 Contemptus Mundi—この世をさげすむこと—14世紀ペスト流行期に始まり、人となられた、この世のキリストに倣うこと、とくに十字架のキリストの黙想によって真の自己に目覚めるデボチオ・モデルナ「新しい信心」の影響の下にトマス・ア・ケンピスによって著わされた)の愛読者となり、この本の影響を受けた最初の日本人信徒とも言われます。細川ガラシアも洗礼を受ける前に高山右近からこの本を贈られことが知られています。高山右近が生涯の中で二回霊操を行っています。伴天連追放令とキリシタン禁教令の流罪の刑を受けて人生の岐路に立ったときでした。川村信三教授によれば、「霊操」を著したイグナチオ・デ・ロヨラに最も霊的成長に影響を与えたのが、この「新しい信心」の運動で、「キリストに倣いて」を聖書の次に大切にしていたと言われ、「霊操」の黙想のテーマに影響がみられる箇所が見られる。(注: 川村信三著「キリシタン大名高山右近とその時代」の第7章祈りの人・右近の要約)

「キリストに倣いて」を読むと、主と僕との対話で霊

的指導が行われていて、「霊操」では、黙想の後、「対話」の時間があります。それはこの「主と僕」の関係、汝である神との関係が、神との交わりとなる祈りの時になるのです。高山右近の小さな茶室は「和敬静寂」の掛け軸があり、「へりくだった」右近の祈りの場となったと証言されています。その祈りの中で、「地上の主」を超えて、まことの上におられる「主」との対話の中で、高山右近は、何を祈ったのでしょうか? 荒廃した世の中にあつて、迫害を受ける兄弟のために、救いを求める人々のために、すべてを超える「天主」への信頼をもって祈るイエスに倣うゲッセマネの境地ではなかったかと想像します。

川村信三教授(上智大学副学長、イエズス会士)は、当時の新仏教(浄土宗・浄土真宗)の特徴とキリスト教との類似点を解説しています。「それは、『本覚論的救済論』で、中世期の比叡山で発展した考えで、その「本覚」とは、この世のあらゆるものは本来「仏性」を持っているとの自覚をさしていわれた言葉です。それを修行で得る「自力救済」宗派と袂を分かれたのが、鎌倉期の新仏教です。もともと『仏性』を持つものは、すでに救われた状態にある。」宣教師たちは、日本にルターと同じ論旨の宗教があることに驚きました。「ただすべての人を救いたいと願われた阿弥陀仏の名を想い、その願いへの感謝として念仏一つでも唱える人が救われる(すでに仏性をもつ。)」(川村著同上, p62) カトリックの教えでは、洗礼によって人は原罪をゆるされ、神の子とされる。救いのためには、洗礼が必要だが、洗礼を受けた人がすべて救われるのではない。神の御心を行う人こそ、神の国(愛の交わり)に入る。一方、ルターは人が義とされるのは神によってであり、信者の功德は必要ではない。イエスの救いの行いを信じる信仰(感謝)によって救われるとした。カトリックの教義では、背景に恩恵論と自由意志論がある。恵みが救いに先行することは確かだが、人間には自由意志がある。ルター派が救いを現在完了形で語ったのに対してカトリック

は未来形で救いを語る。運命論ではなく、信者の決断と行いによって将来の世界と死後の世界が決まる。フランシスコ・ザビエルが日本に来日したのは、1549年で、トレント公会議(1545年)の4年後のことであり、1563年に公会議は終了した。その年、大村純忠が洗礼を受け、最初のキリシタン大名となり、同年高山右近の父高山飛騨の守友照が洗礼を受けた。1534年同志6名とイエズス会を創立したイグナチオは、「救いの予定説」を禁じ、善を選び、悪を避ける識別の方法を教え、選びを大切にした。つまり、神の恩恵の問題に入らず、それを前提として、その神の善を選ぶことを人間の自由意志にゆだね、将来の選びの結果を黙想させるようにした。黙想の結果、倫理的な行為を人が自由意志をもって行う成熟した信仰者となる養成を目的とした。いわば、この最先端のカトリック教会の改革の波が日本の戦国時代に宣教師たちによってもたらされた。イエズス会が、ミゼリコルディア(いつくしみの業)を布教することをその設立の趣旨としていることは、この理論の実践として理解できるし、高山親子がミゼリコルディアの組に入り、領民の葬儀に参加し棺を担いだ驚くべき善行も、納得できます。宣教師たちが驚いた日本の状況は、戦乱と飢饉にあえぐ農民の姿でした。宣教師たちは、皮膚病や嬰兒殺し(まびき)、貧しい人の行き倒れ、そして劣悪な生活環境に心を痛めたのでした。初期の

20年間の宣教は、慈悲の業として府内に診療・療養所が建てられ、「穢れ」の思想で、見捨てられた貧しい病人や死者を手厚く看護した。社会的な衝撃は大きく、秀吉ですらその宣教師たちの行為に感激したのでした。ところが、貧しい人の宗教だと誤解されていると嘆いた後任の宣教師たちによって身分と教育の高い人への宣教方針に転換され、それによって布教の効果をあげようとしたのでした。

翻って、回勅「ラウダート・シ」に示された内的原動力とはどういうものなのか？これは紙数の加減で次回に回しますが、「ともに暮らす家を大切に」という副題にあるように、個々人の霊性が共同体の将来と無関係ではなく、地球全体の問題を一つの家族全体の問題として考える霊性、アシジの聖フランシスコの総合的(インテグラル)なエコロジーを模範とする霊性です。教皇は、「飾ることなく、神と、他者と、自然と、自分自身との見事な調和のうちに生きた神秘家であり巡礼者」(回勅10項、p17)である聖フランシスコの模範によってわたしたちが「人間であることの核心へと」気づかされ、「あらゆる被造物の一つ一つが、愛情の絆に結ばれた姉妹であること、それゆえ、存在するものすべてを氣遣うことに召されている」と自覚する回心のエコロジー、心の改革を提案しておられると思います。

2月のガラスケースのことば

主は助けを求める名もない人と、
見捨てられた人をすくわれる

答唱詩編 72・12

教会へ来たくても来られない方へ復活祭のカードを送ります

福音宣教委員会は、ご病気やその他の理由で教会へ来ることができない方々、21人へクリスマスカードを送りました。嬉しいことに、たいへん喜んでいただけたようです。4月16日の復活祭にもカードを送る計画をしています。そこで、カードの新たな送り先の情報を求めています。福音宣教委員会か村嶋伸まで情報をお寄せください。福音宣教委員会

「故松本一宏神父記念誌」の 出版に向けて

昨年、7月12日に帰天された松本一宏神父様は決して長い期間池田教会に神父として居られたのではないにもかかわらず、わたしたちの全身全霊に生き活きた記憶を遺されました。その記憶を辿って何気なく聞いた言葉や何気なくされたような行動をつないでゆく一



つの行為——こちらへの思いやりを表す行為、だけで、ご自分の思いや誇り、都合を表現している行為は無いのです。書かれた文章を読むとさすがにご自分の思いも現われていますが、それは喜びを与えて戴いたことに感謝の思いの形を採るのが多いのです。そして、故松本神父様は、どのようにしてさまざまな対面者に見て同感したり、同調されたのかと読むものに考えさせます。

故松本神父様がイエス様に従い、イエス様の協力者になったことを永遠に遺してわたしたちの範とするために、池田教会の評議会は昨年12月に故松本神父様が遺された文章や講話と若かった松本神父様の師や同期生の弔辞や追悼文、お導きに与った信徒の弔辞や追悼文、その他の方の追悼文を出版することを決定しました。

記念誌編集委員を募集しています

評議会の下に「故松本一宏神父記念誌の編集委員会」を設け、広く募集した若干の編集委員によって半年程度の期間内に編集し、刊行することを一任することになりました。編集委員となって、記念誌を読みやすい体裁と形にしたい方や記念誌を身近に置いて読みたい方、故松本神父様に不思議に惹かれる方は評議会副議長の四倉良さんに2月中に申し出てください。

初ミサで新成人を祝う

2017年元日の初ミサで9名の新成人を祝った。従来は成人の日に祝うのが通例になっていたが、勤務地・通学地が実家と異なる場合を考慮して年末年始の休業・休学日にずらしたものだが、清新澁刺な5名が笑顔で喜びと静かな決意を表しました。

教会クリスマス会(12/18)
日曜学校の生徒ぜんいん はっぴよう したのは……



①年長・1年生 歌
ジングルベル・あわてんぼうのサンタクロース



②2年生 聖書ろうどく
一人ずつ、えらんだみことばを大きな声で



③中高生 英語での詩編朗読に続いて自己紹介も。



④3・4年生 劇「だれが鐘をならしたか」
どなたが? どうして?



⑤5・6年生 劇「星を追いかけて」



⑥お母さんたち 合唱と合奏 アンコールにも応えて。



⑦スペシャルゲスト
でかいサンタさん
手を上げたよい子にわたったプレゼントはなにかな?」



クリスマス会会場には
立ち見の方も



コールセシリアのミニコンサート 12月25日

12月25日のミサのあと、コーラスグループ、「コールセシリア」のクリスマス・コンサートがカール

記念館で催されました。美しいハーモニーが響くクリスマスソングや、参加者全員で歌うジェスチャー付きの懐メロ、本田実さんの独唱など、盛りだくさんの内容で、皆の心が一つとなって、天使たちのように主のご降誕を賛美いたしました。



80代の歌声が響き渡る



ジェスチャー付きでのりのり！



(上) 独唱にブラボーの声もかかって～～



ウサギになりましょう



(右) 皆で楽しく歌いました

チャリティコンサートのご案内

畠神父様と評議会のご了解をえて、池田教会の聖堂をお借りして、チャリティコンサートをさせて頂くことになりましたので、ご案内いたします。

日 時:2017年2月11日(土・祝)
14:00開演(13:30開場)
場 所:カトリック池田教会 聖堂
出 演:ピアノ2名、声楽5名、朗読1名
★ドレミの会が賛助出演します!

プログラム

～聖書と音楽～
高田三郎『混声合唱のための典礼聖歌』より「小さな人々の」「羊飼いがいて」 他
～冬から春へ～
山田耕作「ペチカ」・シューベルト「菩提樹」・テイリントゥリ「おお春よ」
中田喜直『四手連弾のための組曲 日本の四季』より「春がきて桜が咲いて」 他

入場は無料ですが献金にご協力頂ければ幸いです。全額を社会活動委員会に委託して熊本地震被災地等に送らせて頂きます。整理券つきチラシを聖堂入口とカール記念館入口に置いてあります。

たくさんの皆様のご来場をお待ちしております。

鋤納

表紙の絵画について

画家レンブラント・ファン・レインは1606年にオランダの学術都市ライデンで生まれ、肖像画家の第一人者としてその地で1669年に没している。

「夜警」(下図)や「キリストの受難」シリーズ、復活したキリスト、などの有名な絵の他にも、表紙になった小さな板に描いたイエスの絵も幾つか残っている。考え込んでいる青年の白い肌と縮れた黒髪、鋭い鼻をしたのはイエスの特徴を備えている。



2月から変更されます

教会HPと「からしだね」の電子メール・アドレス

2月から池田教会のホームページが次のように変更されます。

(新) <http://www.ne.jp/asahi/catholic/ikedachurch/index.htm>

(旧) http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikedachurch/index.htm

これまで利用してきたインターネット接続業者が、1月末でホームページのサービスを止めたためです。2月以降は、旧のページを開こうとすると、新のページに自動的にジャンプします。

一方、広報委員会への連絡用の現在のメールアドレスは1月末日で使用できなくなります。2月以降については決まり次第お知らせします。

1月31日まで auaad433@wombat.zaq.ne.jp

広報委員会



編集後記

高山右近の列福を乞い願いましょう、と池田教会がミサで熱心に祈るようになったとき、正直ピンとこなかったのです。歴史のはるかかなたの人であるし、今更、福者や聖人という位づけをして頌徳することに違和感がありました。しかしその後、高山右近について少しずつ学ぶうちに、けたはずれに偉大な人物であるとつくづく感じるようになりました。

迫害当時の信仰者の生き方と現代の信者生活は、同じ信仰を持つ者同士とは思えないほど隔たっています。だらしのない自分を振り返り、反省するきっかけとしても、福者や聖人という存在に意義があると思うようになりました。高山右近が今の時代に生まれていたら、どう生きてでしょうか。

ソフィー